

# アグリビジネス分科会 2007年度 活動報告

# 農業を取り巻く状況は急変

- 高齢化、食料自給率の低下…

これに加えて

- 輸入作物の値上がり
- 食の安全性の問題

いかに自国の農業を活性化させていくか

# 今年度の方針

- 先進的取組を行っている自治体の担当者を招いて、取組みについてお話いただく
- オーガナイザー3名体制に変更
  - 塚田周平、高橋修一郎、**島田宝宜**




# 海士町のご紹介

- 海士町教育委員会松前様
- 島根県隠岐郡
- 人口問題、財政問題・・・
- 「日本の尺図」



豊富に採れる**海の幸**、名水百選の**水**、多種の**野鳥**など  
**国立公園**にも指定されている  
**自然溢れる美しい島**。



\* 国立公園:「我が国の景観を代表すると共に、世界的にも誇りうる傑出した自然の風景であること」という要件のもと全国28箇所が指定。

# 1.人口問題

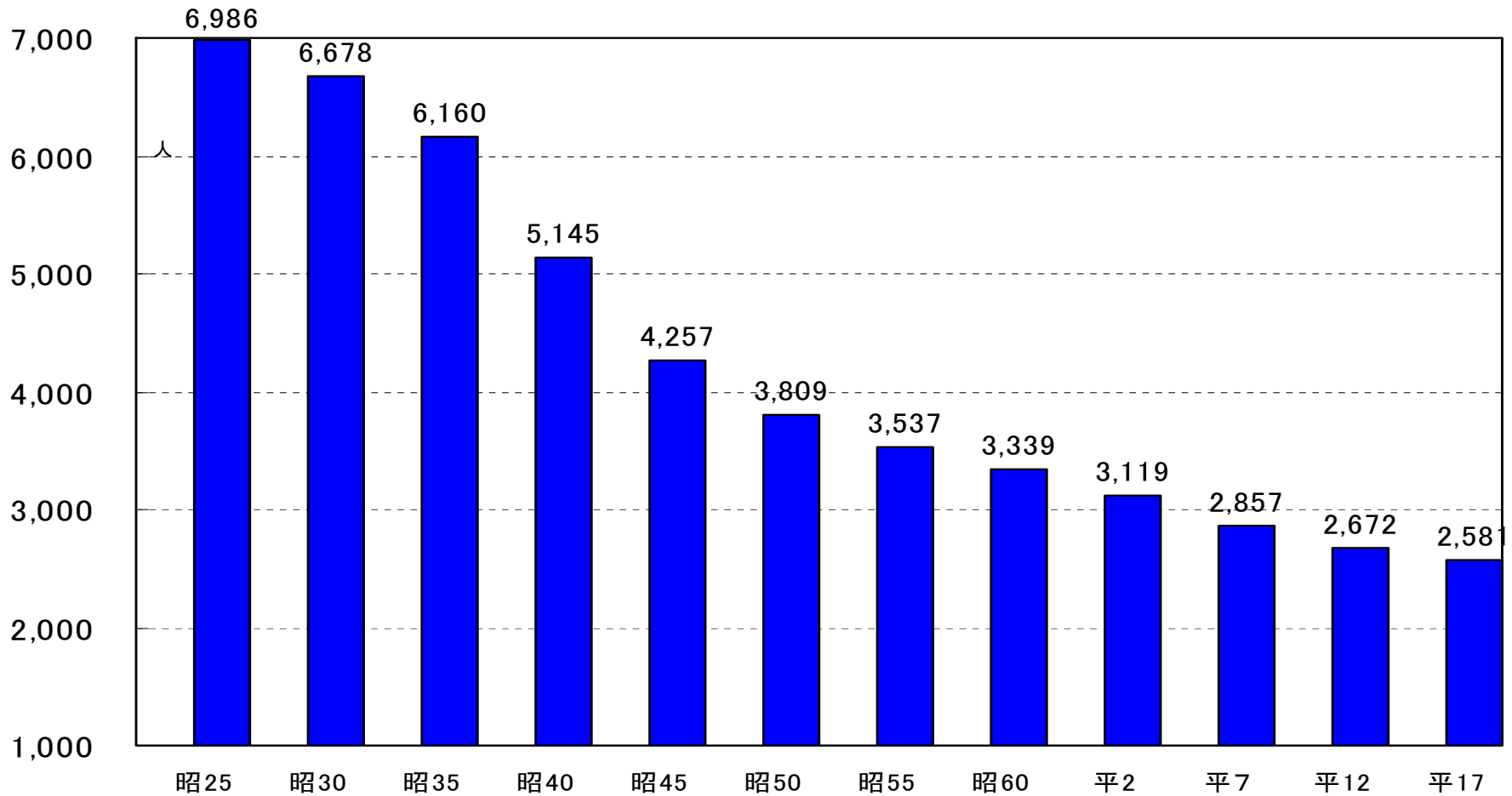
- 超 過 疎
- 超 少 子 化
- 超 高 齡 化



原 因

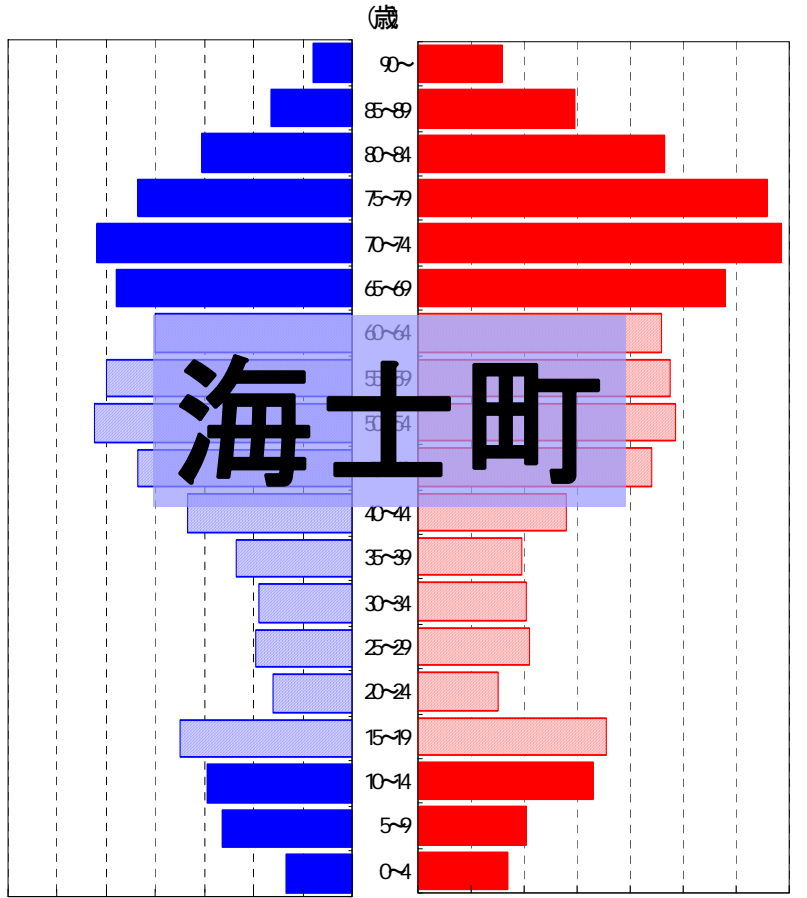
雇用の縮小と都市への流出

# 人口流出



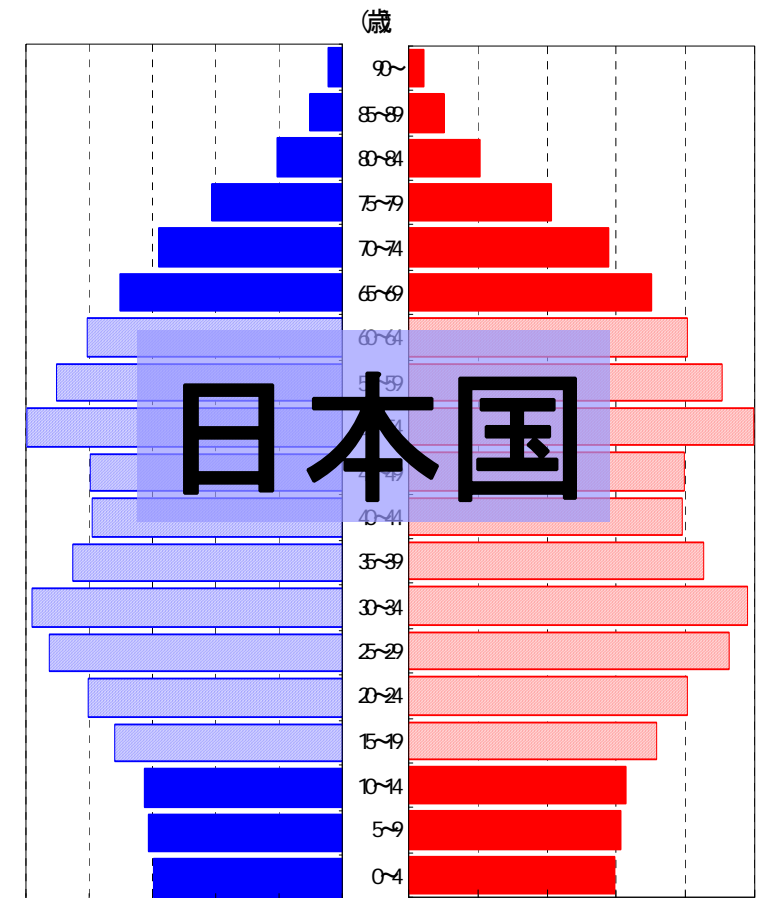
7000人の人口が2500人へ

# 超少子高齢化



海士町

(H15. 12. 26)



日本国

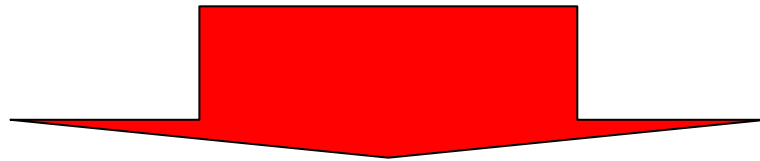
(H15. 10. 01)

人口の約4割が65歳以上  
10年後 海士中学全校生徒28名



## 2.財政問題

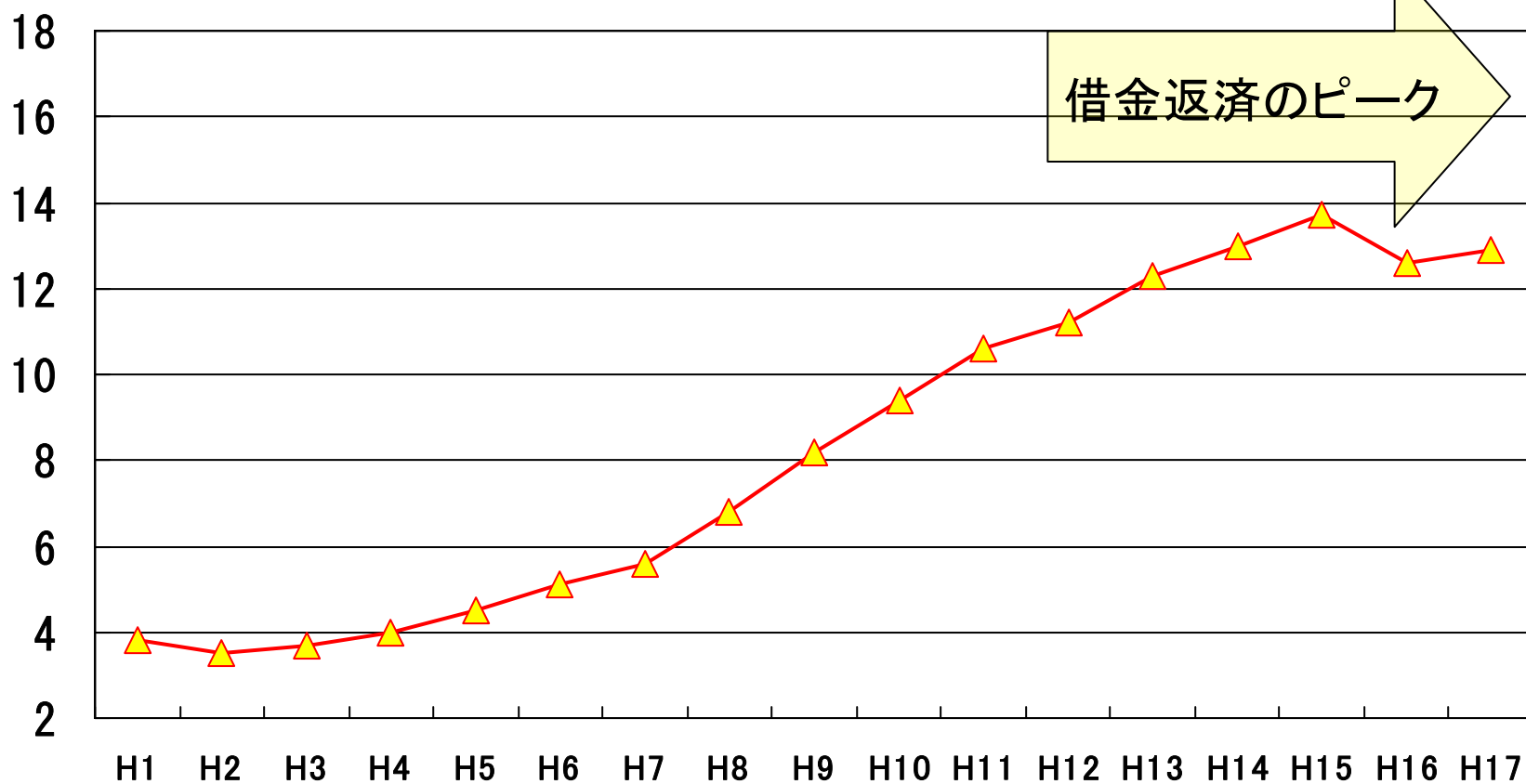
- 平成16年三位一体の改革が本格的に始まる
  - ◆島の雇用、経済を支えてきた公共事業の大幅な削減
  - ◆地方交付税等の突然かつ大幅な削減



島の存続さえも危うい緊急事態に

# 公共事業で借金の返済が増大

▲ 返済



# 海士町の取り組み

- 守りと攻め

- コスト削減の徹底

- 人・モノづくり

■シンボル事業の連鎖イメージ

# 「攻め」の戦略

モノづくり

シンボル  
事業

モノづくり

人づくり

健康づくり

地域再生計画の認定(H16.6)



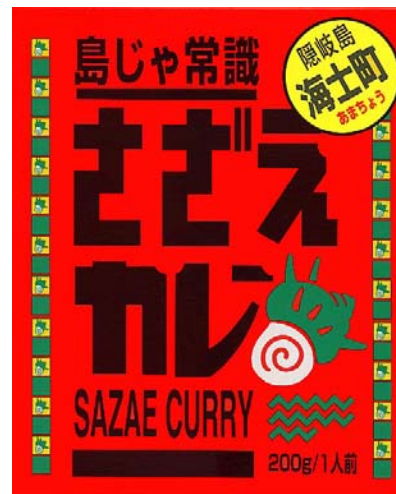
# 初めてのモノづくり①

## ■ 産業施策の理念と挑戦への気概

H  
9  
年  
度  
発  
売



H  
10  
年  
度  
発  
売



- さざえカレーはブランドとして認知され、高い評価を受けている

# モノづくり パート②

- 海士のいわがき『春香』……H12年度発売
  - 東京「築地」でブランド
  - 高レベルの品質管理



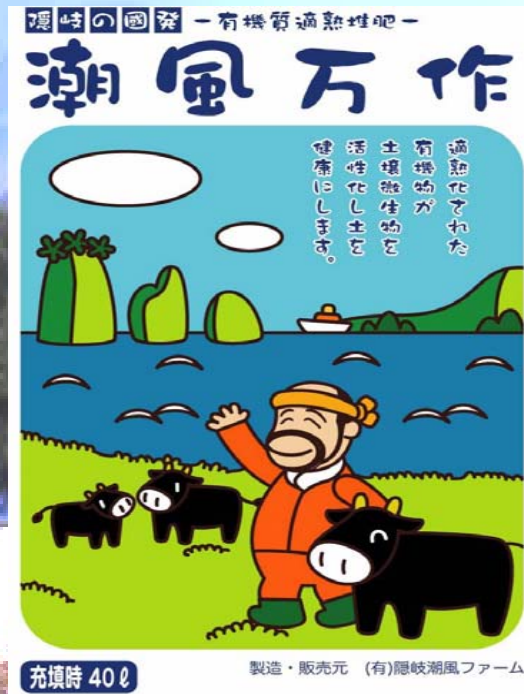
# モノづくり パート③ 肉用牛

- **農業構造改革特別区域**の認定(H16.3)  
農業分野に建設業が新規参入
- **「島産まれ島育ちの隠岐牛」**のブランド化を目指す → H18年3月に東京食肉市場に出荷
- 出荷実績  
**A5**(71%) 平均単価2,721円
- **海士ファンバンク制度創設**(H18. 11)



# モノづくり パート③

- すべて循環・完結できる農業社会の形成  
(堆肥等)





# モノづくり パート④

## ■ 手づくりの**天然塩**で食育を・・・H16.5～

- 名水百選の水と手作り伝統製法の復活によるミネラル豊富な『海士の塩』
- 海士らしい**健康**的な商品開発  
『海士の塩』で漬けた梅干や塩辛づくり



# モノづくり パート⑤

## ■ CAS(Cells Alive System)新技術の導入

- 素材の細胞を活かしたまま、瞬時に凍結し島で捕れた鮮度そのまま消費者へ
- 離島のハンディを克服する武器として第一次産業の復活と農水産物の高付加価値化を狙う

## ■ 第三セクター「ふるさと海士」の創設

(H16)

- 雇用の増大と定住促進
- Iターンの人材活用

# 取り組みまとめ

- 特産品を前面に出したもののづくり
- 農業構造改革を生かした他事業の参画
- 第3セクターの利活用

特産品をいかに魅力ある商品に変えていくか  
いかに売り込んでいくか

# その他の講演会

- ムジナ米川様
- 早稲田大学農楽塾





# 子供・学生に 農業の未来託す

## 育成事業続々

農業の担い手づくりに向けた新事業が相次いで始まる。科学教育事業のリバネス(東京・新宿)は農家と連携し、子ども向けの農業教育事業を開始。アサナイ学校運営のパンソン(東京・渋谷)は〇九年にも農業経営者の育成事業に参入する。政府が法人の参入や新規就農の促進に力を入れるなか、就職支援や農業事業者向けサービスの需要が拡大していることが背景にある。

科学教育や研究開発支援を手掛けるリバネスは、子ども向けに農業科学教室を始めた。食品メーカーからの支援や地方自治体の助成を受け、小中高生向けに農業体験と農作物の成長などの授業を提供し関心を高めている。リバネスは農家と連携したも向け農業教室を開催している千葉県山武市

## 経営や実習のコース

「パンタン」  
「リバネス」  
「アサナイ」  
「パンソン」

## リバネス 小中高生向け体験授業

らう。地域の農産物や海産物を使ったカプセルの立ち上げなど地域活性化策の提案も手掛ける。アサナイやアサナイの学校を運営するパンタンは、〇九年春をメドに都内で農業経営者の育成コースを新設する。経営者や農業経営に興味を持つ学生らを対象に、電子商取引やマーケティング、農作業の実習などの講義を提供し、農業生産法人の経営者らを講師に招き、コース当たり三十人程度を募集する。農業人材育成ベンチャーのNOPPO(東京・中央)は年内にも、農家や農業法人向けの人材紹介事業に参入する。学生向けセミナーや専門誌の発行、販売ルート開拓などのコンサルティングで培ったネットワークを生か

## 制御機器もネット通販

半導体・電子部品の電(OT&、東京・千代田)が運営するカタログ・ネット販売事業の一部を統括する。四月にオムロンの。OT&はオムロンや他メーカーの制御機器をほ

## 携帯用基礎標準化団

携帯電話ソフト大手のACCESは十二日、国内外の携帯電話関連企

科学教育事業のリバネス(東京・新宿、丸幸弘社長)は、専門知識を持つ理系の人材を地方自治体に紹介する事業に乗り出す。地域活性化へパイオ関連などの新規事業を始める自治体が増えているが、専門家が地方に少ない点に着目。同社には首都圏の大学に在籍しながら定職を探す博士号取得者など約三百人が登録しており、こうした地域ニーズと結び付ける。

## 理系専門家、地方に紹介

### 科学教育のリバネス

第一弾として福島県で自治体の町おこしを手掛ける販売企画研究所(福島県郡山市)と提携。東北地方で自治体や中小企業などに研究者の紹介を始めた。地方自治体で国の補助金が付きやすい環境関連などの新規事業に取り組み動きが活発化しているのに対応する。二〇〇二年設立のリバネスは、小中学校や高校への理科の出張実験授業や企業からの研究受託な

## 自治体や中小企業に

どが主力事業。東大や東工大、東京薬科大など首都圏の大学で博士号を取得後、短期契約で働くポストドクター(ポストドク)と呼ばれる研究員が多数登録している。大学内での就職が厳しさを増し、ポストドクは定職探しに急務。ベンチャー企業などに紹介してきたが、「安定したイメージの強い自治体への就職を希望する登録者が多い」(リバネス)。

# 来年度の方針

- 「地域のニーズとシーズを掘り起こす」
  - 特に農産業にからんだものづくりを中心に
- 講演形式、毎月開催
- オーガナイザー 高橋 島田 塚田

是非皆様ご参加を！